いきいきライフに乾杯！

「被害の記憶を後世に」

徳蔵寺住職　源田（げんだ）　晃澄（こうちょう）さん（73歳）

カスリーン（キャサリン）台風（昭和22年）の被害を後世に伝えたいと祈念し、資料集めに奔走し、小中学生や一般の人たちに話をしている源田さんにお話を伺いました。

きっかけは

私は4歳の時、カスリーン台風の被害に遭遇しました。激しい水の流れから身を守るのが精一杯でした。幸い自宅が寺でしたので比較的高い本堂に避難し、なんとか助かりました。しかし、庭や木の枝に多数の犠牲者を目の当たりにしました。

その後成人し、比叡山での修行が終わり、足利に帰ってきてから、カスリーン台風の事実が風化されないよう、資料集めに力を入れました。そんな行動がいつしか噂になり、小中学校から話をして欲しいとの依頼が多くなりました。またNHKからの取材もあり、現在に至っています。

どのような話をしていますか

主に、私が4歳の時に体験したことを中心に話しています。特に、激しい水の流れの中で、生きたい、助かりたいという人たちの心の叫びを伝えています。生きたくっても生きられなかった人たちの悔しさや無念さを話し、現実の学校の中で、いじめなどによって尊い命を自ら失うことがあってはならないこと、命の大切さを訴えています。

そして、災害は忘れた頃にやってくるという言葉がありますが、足利は災害が少ないところだという油断をせずに、日ごろから、いざという時の準備を忘れないことが大切であることを説いています。

これからは

300名以上の犠牲者が出た大災害の事実をいつまでも伝えることが、私の使命だと思っています。そのためにも、きちんとした資料を作成していきたい。幸い、国土交通省の渡良瀬川河川事務所の多大なご協力が得られ、カスリーン台風に関する資料が整ってきました。

「やっくんの大水（おおみず）」という絵本がありますが、これからもいろいろな形で後世に伝えていきたいですね。

「私は住職で住む職と書きますが、普段は、奉仕活動であちこち飛んで歩いているので、飛職（とびしょく）だと言っています」と笑って話されていました。（M・H）

＊＊＊編集後記＊＊＊

「そなえよ　常に」よく聞く言葉ではあるが、日常、自分はどの位、災害にたいしてそなえて居るのだろうか。思っていても実現は難しい。自助、公助、共助、いろいろあるが、日頃の近隣の助け合い、地域での助け合いがとても大切だと気づいた。被災地では女性だからこそ、男性だからこそ、の気づきも沢山あると思う。

「そなえよ　常に」を忘れずに。

（M.K）

＊男女共同参画週間事業標語入選作品＊

平成28年度男女共同参画週間事業として、小学校5年生～高校生を対象に、男女共同参画をテーマとした標語を募集しました。応募総数939点の中から、次の2点が、最優秀賞に選ばれました。

☆小学校5・6年生の部　東山小6年 大竹美由紀さん
『どちらも大切　とどけ男女の　ハーモニー』

☆中学生・高校生の部　西中3年 安野吏南子さん
『認め合う　気もちがあれば　笑顔咲く』

●編集　「かけはし」は市民の編集委員と人権・男女共同参画課が共同で年2回発行しています。〈編集委員〉樫村美智子、源田裕久、小林知子、保々政司、本島多加子（50音順）
●発行　足利市総務部人権・男女共同参画課　〒326-0823 足利市朝倉町264　TEL 73－8080　FAX 73－8066　●E-mail　danjyo@city.ashikaga.lg.jp
●ホームページアドレス　http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/　●表紙の題字は根岸君子さんです。